



つのちょう

第48号

議会だより



平成29年津野消防出初式

12月定例会

平成29年2月1日発行

主な紙面

平成28年度一般会計補正予算…………… 2P

行政報告…………… 4～5P

町政を問う（5人が一般質問）…………… 6～14P

発行 高知県津野町議会
☎(0889)55-2038
編集 議会だより発行調査特別委員会
発行責任者 議長 大崎公孝
印刷 刷 笹岡印刷所

葉山中プール改修工事
公債費繰上償還金等

5億9,400万円を増額

総額69億7,300万円

12月定例会は、7日から12日までの6日間開かれ、平成28年度補正予算をはじめ、議案10件を原案のとおり可決、人事案件1件を答申した。

一般質問には5人が立ち、国道改良、幕末維新博に向けての観光・産業振興、再生エネルギーの活用、教育特別活動への支援、高齢者・少子化対策等について執行部をたずねた。

28年度補正予算

▼一般会計補正予算(第3号)

国の補正による臨時福祉給付金3千276万3千円、道整備交付金事業3千644万8千円、社会資本整備総合交付金事業1億5千345万円及び葉山中学校プール改修事業1億7千570万8千円等を増額、公債費元金の繰り上げ償還4億7千696万7千円を計上するものと、事業不採択により再生可能エネルギー事業化計画策定事業1千万円等を減額。歳入歳

出5億9千400万円を増額し、歳入歳出の総額を69億7千300万円とする。

可決(全員一致)

▼国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)

事業勘定で職員の人件費、及び保険療養費の増額分、平成27年度の国費療養給付費の負担金の確定に伴う償還金等歳入歳出1千697万5千円を増額し、歳入歳出の総額を9億6千872万3千円とする。

可決(全員一致)

▼介護保険事業特別会計補正予算(第2号)

所得指標見直しに伴うシステム改修費、平成27年度実績に伴う償還金等歳入歳出129万8千円を増額し、歳入歳出の総額を7億7千506万4千円とする。

可決(全員一致)

▼簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

大野・栗の木簡易水道事業の工事について、国の内示額が要望額に満たなかったことに伴い歳入歳出1億3千646万円を減額し歳入歳出の総額を2億6千650万4千円とする。

可決(全員一致)

条例の制定・改正

▼災害に際し応急措置の業務に従事した者に係る損害賠償に関する条例の制定

災害時に応急措置の業務に従事させた者が、この業務遂行のために死亡、負傷や障害の状態となったときの損害補償について条例で定めるもの。

可決(全員一致)

▼津野町職員の給与に関する条例の一部改正

国の総合的見直しに対応するため、県準拠から国準拠に一部改正するもの。

可決(全員一致)

▼津野町集会所設置及び管理に関する条例及び津野町集落活動拠点施設設置及び管理運営に関する条例の一部改正

貝ノ川地区集落活動拠点施設の整備に伴い、集落活動拠点施設に追加し、貝ノ川集会所を集会所から除くもの。

可決(全員一致)



建築中の貝ノ川地区集落活動拠点施設

▼津野町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数条例の制定

農業委員会等に関する法律の改正により、農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定め、併せて農地利用最適化推進委員の報酬を定めるとともに「津野町農業委員会」の選挙による委員の定数条例」を廃止するもの。

可決（全員一致）

その他の議案

▼平成28年度津野町情報セキュリティ強化対策委託業務契約の締結

契約の方法 指名競争入札
契約金額 8千532万円
請負者 四国情報管理センター(株)
可決（全員一致）

▼平成28年度林道災害第1号林道柿の木谷線災害復旧工事請負契約の変更契約の締結

契約金額
変更前 2億8千620万円
変更後 3億218万2千920円
請負者 (株)谷渕組東津野支店
可決（全員一致）

委員会発委

▼地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書

地方議会議員のなり手不足が大きな問題となっており、地方議会議員の年金制度を時代に相応しいものにするのが議員を志す新たな人材確保につながることを考えることから、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実現するよう国に対して強く要望するもの。

可決（全員一致）

▼参議院議員選挙における合区の解消に関する意見書

憲政史上初めて1票の格差是正のための合区が導入された参議院議員通常選挙は、投票率の分析などから地方の意見を国政に反映させる機会と権利を失わせる結果となったことから、合区解消に向け単純な人口割のみでの選挙区割りではなく、国土保全や地域特性、面積要件などを踏まえ、法律のみならず憲法の改正も視野に入れて、都道府県単位による代表が国政に参加する仕組みを構築されるよう国に対して強く要望するもの。

可決（全員一致）

陳情の審査

▼保育予算を大幅増額し、安心できる保育の実現を求める陳情

(決定) 採択
(理由)

子ども・子育て支援新制

度では、全ての子ども・子育て家庭を対象に、安心できる保育の質・量の拡充を図ることを目的にしているが、一方で、本制度施行後に保育申込者が急増したところによる待機児童を解消するために出された緊急対策は、基準の切り下げや弾力的な運用が中心であり、子どもの安全や保育の質の低下が危惧されている。本町は他の自治体に先駆けて、子ども・子育て支援への施策が充実し、待機児童の課題は認められないが、病児・病後児保育への対応も含め、職員配置基準と処遇の改善等、まだまだ課題を抱えている。女性の就労を応援すること等を目的に待機児童解消を念頭においた認定こども園の開設が、予想以上に伸び悩んだ結果を顧みて、保育予算の大幅な増額により認定こども園の在り方そのものを含め、安心できる保育の実現を目指すことを求め本陳情を採択とした。

委員の推薦

人権擁護委員

森山 進 氏（再任）
津野町高野
昭和24年生



町長 行政報告



池田町長

この1年を振り返ると4月の熊本地震、関東から北海道にかけての度重なる台風、10月の鳥取県中部地震など全国で甚大な被害に見舞われた。本町では大きな災害もなく、葉山運動公園総合センター、大野統合簡易水道施設・林道柿の木谷災害復旧工事をはじめインフラ整備を実施し、高幡広域では奥四万十博にも取り組んできた。

少と地域経済の縮小」の悪循環に歯止めをかけ、将来にわたって地域の成長力を確保するとしている。これを踏まえ、「経済・財政再生計画」の枠組みのもと、本格的な歳出計画に取り組みなければならぬ。全国過疎地域自立促進連盟の総会では「地方創生と人口減少の克服」「地方交付税による財源保障機能の充実強化」「過疎対策事業債の必要額の確保」など8項目を決議し、平成29年度の施策に関する要望活動を行った。

平成29年度予算編成

2月に町長選挙が予定されており、当初予算は経常的経費を中心とした骨格予算のみとした。歳入の大半を占める普通交付税は、平成32年度までに段階的に一本算定に移行し、2億円の減額となる。経常収支比率は、平成27年度69・0%から平成32年度には77・0%程度になり、町債は公共事業の拡大に伴い、繰り上げ償還をしない場合、平成37年度には実質公債比率が13・0%、公債費が12億円程度になる。今後は繰り上げ償還を行い、町債の発行を抑制し、健全な財政運営を図っていかなくてはならない。特別会計では国民負担を念頭に財源確保を図り、将来にわたる負担を考慮した的確な収支見通しに基づく健全な運営に努めなければならない。

国道439号線寺川工区延長

国道439号寺川拡幅工事は平成23年に事業着手。県において整備中。要望を重ねてきた日曾ノ川工区は「寺川拡幅工区延長」という形で日曾ノ川集落分岐の上流1キロ区間の延伸が決定。現在「道路概略設計」の発注を行い測量中。来年度には大まかなルート計画が決定される予定。

コミュニティバス運行

平成27年度に策定した公共交通再編の基本に基づき、平成28年当初から地区座談会をはじめ住民への説明・意見集約、タクシー業者等

との連携・調整等を継続的に実施。これらの意見を踏まえ、各集落と生活の拠点となる姫野々地区や新田地区を結ぶ24路線の候補について9月に週1回4往復で運行開始した。なお、試験運行期間は平成29年9月末日までを予定。利用者の満足度・乗降者数等利用状況を検証し、随時、路線ダイヤなどの見直しを図り、最終的に町内公共交通ネットワーク体制を構築する。

奥四万十博と経済効果

新規イベントとして開催したツノチャ・マルシェは、民間事業者のみで実行委員会を組織し、津野町特産のお茶をメインにスイーツや雑貨など32店舗が協賛。初開催にもかかわらず約2千人の来場者があった。

体験については白石地区の「しらいし」ピザ焼き体験」郷地区ガイド付き散策プログラム「歩いて郷GO!」を商品化し、入込客の増加と地域の活性化との相乗効果を図っている。今年度入込客数は10月現在20万7千

751人で11・2%と過去3年間の平均で高い数字を出している。宿泊者数は8千214人で115・0%。なかでも天狗荘は満天の星が見える絶好のスポットとして売り出し、県内外はもとより香港はじめ外国からの宿泊客も増加傾向にある。



志国高知幕末維新博に向けて

吉村虎太郎邸・片岡別荘をサテライトに、奥四万十博を母体とした観光クラスター協議会、文化財保護審議会等、町内関係者の意見を聞き進めていく。10月と11月を津野町歴史月間とし「津野氏と片岡家」中世の継承と近代の偉人」と題した企画展を開催。247名の来館者があった。10月には高知城副館長・横山氏による「津野氏と姫野々城」と題した講演会を開催。城跡からの出土品など様々な資料で裏付けされた津野氏と姫野々城の概要についてご講演をいただいた。11月には8地区において津野山古式神楽が奉納され、例年以上に町内外から見学者が多く訪れ津野町の歴史・文化に触れていた。

学力向上対策について

4月に実施した全国学力・学習調査において小学校では、国語A・B算数A・

B共に全国トップ県の平均より高い数値を出している。中学校は国語Aが全国平均より高く、国語B数学A・Bは全国平均より低い位置にある。各学校で細かな分析を行い、その課題解決に向け全教職員で個々に応じた学習支援を実施。4年目となる学力向上対策については、学力・学習調査の課題が明らかにされたことを受け、主体的・対話的で深い学びのある問題解決型の授業づくりに向けた授業の改善や加力指導等、西留先生より直接指導・助言を受け継続的に取り組んでいる。



西留先生の教員指導状況

傍聴記

津野町北川 上岡和博

議会の一般質問には、町政の動きや議員さんの活躍振りを少しでも知りたいとの思いから都合のつく限り傍聴しています。しかしながら毎回傍聴者は数人であり寂しい限りです。何とかもっと多くの人々に感心を持ってほしいと思います。

傍聴して気づくことは、活気のないことです。繰り返し返しの質問が多いことと、聴き取り難い応答があること、総じて審議が形骸化しているように思えます。このことが住民が議会に魅力を感じない理由ではないでしょうか。町議会の傍聴は一番身近な政治参加であり、議員の方々の活動が間近で見られ、また税金の使われ方等を知る良い機会です。

昨年選挙権が18歳に引き下げられたこともあり、

若者に、もっと政治に感心を持ってほしいものです。議会開催については町内放送で案内されていますが、気密性の高い最近の家では聞きづらい事もあります。議会中は庁舎の玄関に傍聴を呼びかける掲示をしてみるのも一案ではないでしょうか。

民が自分の町のあり方に感心を持てる様な新しい発想で議会が運営されるよう、町長、議員、執行部の方々の活躍に期待します。3月からは奥四万十博に続いて幕末維新博が始まります。吉村虎太郎のアピールと共に自然を生かした観光策を計り、津野町に多くの観光客に来ていただきたいものです。



12月定例会(土曜議会)本庁議場



田中一孝

一般質問

問 移住・定住の効果と課題は

答 今後は地域でも促進事業を

田中

2年間の取り組みが行われたが、その成果と課題はどうか。費用対効果はすぐに出ない事業ではあるが、結果を求める事業展開は必要ではないか。

池田町長

27年度から本格的に取り組み、移住者が18組48名、28年度は13組25名となっている。空き家住宅の不足が一番の課題。今年度、県外対象の「空き家改修補助制度」を創設したが、来年度は町外に見直し充実させた。

問 地中熱事業の今後は

答 事業化に再挑戦

田中

町は9月議会で再生可能エネルギー事業化計画を提案した。一昨年には木質バイオマスエネルギー事業の視察を行ったが、エネルギー事業の変更の経過を聞く。

池田町長

木質バイオマスについては需要と供給、費用対効果が見込めないことで断念をした。地中熱利用については福島ミドリ安全に指導を仰いで国の補助制度の申請をした。今回は不採択になつたが、平成29年度に再挑戦したい。



地中熱事業視察の様子





問 幕末維新博の準備状況は

答 奥四万十博をベースに

田中

幕末維新博は奥四万十博と違った形での観光・産業面の体制・人づくりが重要だ。高知県は幕末維新博に①歴史資源の磨き上げ②観光クラスターの形成と国際観光に繋がる持続可能な観光振興計画を策定している。本町での準備状況と開幕までにどう取り組んでいくのか。

池田町長

今年6月から観光クラスター協議会を設置。協議会には奥四万十博実行委員会メンバーや虎太郎社中も加入。周遊コース作り、観光ガイド育成・人材確保を図る。今までの観光資源と歴史資源を組み合わせ誘客したい。



奥四万十博ナビゲーターを務めたしんじょう君

川上教育長

幕末維新博に向けてハード整備については片岡別荘の改修工事を平成29年度に実施したい。本町には虎太郎邸・片岡別荘・津野町郷土資料館のほか、姫野々城跡もある。また、勤皇の志士を多く輩出しており歴史的な見どころは多くあると自負している。推進にあたり葉山史談会・高知県・佐川町青山文庫等の団体組織とも連携して取り組む。

田中

総合戦略「まち・ひと・しごと創生」政策5原則を推進されて1年経過した。成果や課題また新型交付金の活用はどうか。

池田町長

取り組み成果として、独創的なCM作成で本町の認知度の向上・情報発信、観光客の受け入れ・宿泊客の増加で事業効果があった。人口の社会減が続いている。今後効果的な事業への見直しを行いたい。

岡崎企画調整課長

27年度の地方創生先行型交付金については事業内容として奥四万十博準備経費・総合観光戦略等に使用。28年度は地方創生加速化交付金として地域ブランド担い手づくりや奥四万十博開催経費に使用している。

問 新型交付金の活用は

答 一定の事業効果があった

その他の質問

問 奥四万十博の総合的な評価分析は

答 新たな体験は今後に繋がる。官民連携の取り組みで経済効果は約1億円。

問 四国カルスト観光の全国化を

答 奥四万十博後も満天の星空や山岳観光等をPR

問 地球温暖化防止対策に取り組み

答 新事業立案が必要



山本昇平

一般質問

山本

パリ協定が発効、日本も批准した。見解は。

池田町長

最近日本各地で豪雨災害が頻発している。これは地球温暖化が要因と認識している。

温室効果ガス削減については、我が国は大変高い目標を設定しており厳しいものがあると考えますが、今後のエネルギー施策において新事業立案を目指し、地方公共団体・民間企業等と共に取りくんでいく。

山本

木質発電比20〜30倍の高効率であり、竹（1本あたり1千800円想定）を燃料とするもので、地域の発展と雇用促進に繋がる。

環境面からも原子力・石炭火力の代替エネルギーとして、全国に先駆けて取り組むべきと考えるが。

池田町長

日本の電源構成は2030年、原子力24%となっているが、安全の担保がない限り国民の理解は得られないと考える。

再生可能エネルギーは今後15年で倍増すると考えている。津野町には71haの竹林が点在しているが、今後搬出方法や経費等について研究が必要。

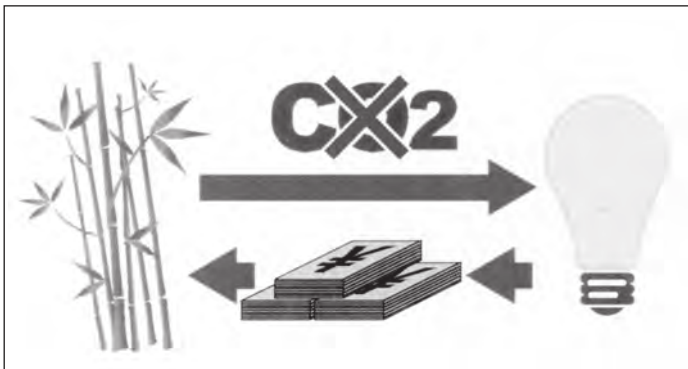
答

実証実験結果を見極める

問

超高効率カーボンニュートラル発電事業導入を

本発電事業は現在実証実験中であり、結果を見極めたうえでの判断となる。まずは情報収集に取り組む。



カーボンニュートラルのイメージ

問 なぜ全国トップクラスになれたか

答 4年前からの取り組みの成果

山本

コミュニティスクール推進事業に取りくんではいる葉山小学校を視察した。1年生の授業中、計算問題の解答で自分の考え方を理論的に組み立て発表していることに大変驚き、学力テストの結果に納得した。要因にはいろいろあると考えるが。

川上教育長

コミュニティスクール推進事業は9月に立ち上げたばかりであるが、以前より取り組んでいる道徳教育に加え、4年前に学力向上対策室を設置し、アクティブラーニング型授業を行っている。主体性・協調性・協同の学び・深い学びというものを学習しており、これらの成果が出てきていると考えている。他2小学校についても同様である。



アクティブラーニング授業の風景



西元和代

問 クラブ活動の今後は

答 教職員と十分協議する

西元

中学校のクラブ活動への外部指導者導入は専門性を取り入れる等のメリットも大きい。導入に関する見解は。

また、文化系クラブの在り方は現状どおりで良いのか？単独校での大会出場の困難さ等の課題、クラブの新設の要望等もある。小学校を含む全体で今後の在り方を協議すべきでは。

川上教育長

保護者や地域の人の支援は極めて重要で望ましい。外部指導者への期待も大きく、将来にわたり必要な時期になっていると感じる。

一般質問

問 情報の共有を

答 しっかり指導する

文化系クラブについては心肺機能が大きく発達する中学校期に、スポーツを通じて身体的な発達を促したいという教育方針が前提である。心身面・環境上にもしっかりと配慮することが大切だと考える。これらは教職員としっかりと協議していきたい。

大会出場が単独校で難しい場合は合同チームによる出場等の支援を行う。

クラブの新設・存続・廃止は、最終的には学校の中で話し合う等、子ども達が決めることが望ましいと考える。

西元

町が主催や後援であるにも関わらず、町内のイベントの日程が重なっている。各課で情報共有できるシステムが必要。

池田町長

各地域の活動が活発化し始め重複を避けられない場合もあるが、それぞれの部署のパソコンで各課が共有できるようにしている。各地域団体にもイベント情報を流しながら極力、重複を避けるようにしていきたい。対応が不十分だった点に関して的確な情報を町民に伝達できるよう、しっかり指導していく。



東津野中学校クラブ活動の様子

問 計画終了後のワーキンググループは

答 課題に応じて実施

西元

地方版総合戦略の計画に
あたり3つのワーキンググ
ループができた。計画期間
は平成31年度までだが、や
りがいや新たな発想を生み
出すきっかけにも成り得る
良い活動である。期間終了
後も継続されるか。

池田町長

長いスパンの中で議論し
計画するためには各課横断
的な若い世代の意見を聴く
ことが重要である。各課題
に応じてワーキンググルー
プ活動を行い、よりよい計
画づくりに活かしていきたい。

西元

8月に2名の協力隊員が
任期を迎える。町としての
ビジョンを十分に示し、受
け入れ体制を整えていくこ
とが大切だと思うが新たな
協力隊員の募集を考えてい
るか。

池田町長

新たな考えも出てくるの
で、本人に伺いながらサポ
ートしている。2名の任期
満了後には、ある一定のミッ
ションを求める形に絞った
募集を検討している。協力
隊員だけでなく、地域の方

問 新たな地域おこし協力隊は

答 ミッションを絞つての募集を検討中

々にも受け入れの体制をとつ
ていただけるよう地域のコ
ミュニケーションについて
しっかりと指導していく。

岡崎企画調整課長

定住に向けての支援は任
期中で公営から定住用住
宅への転居を認め家賃の支
援をしているほか任期終了
後に起業する場合には国の
特別交付税の対象となる上
限100万円まで、対象経費の
支援が可能である。起業だ
けでなく個々の実績や能力
を加味し、町内の就職も含
めてどういう方向が良いか
適宜相談や指導を実施。
その他、国や県主催の研
修や講習への派遣もしてい
る。



地方創生ワーキンググループ活動の様子



川上 智子

一般質問

問 返納者への環境整備を

答 移動手段の確保から

川上

高齢者の運転による自動車事故が社会問題になりつつある。事故防止対策の一環として運転に不安がある高齢者に対し、自主返納を促す環境づくりを。

池田町長

高齢者等の交通弱者の移動手段の確保の観点から取り組む必要がある。

現在80歳以上の方に福祉タクシーチケット配布。11月から各地を巡回するコミュニティバスの試運行を実施中である。今後も様々検討し必要なものがあれば導入し事故防止に繋げたい。



コミュニティバス利用の様子

川上

学校の統廃合が進み、子ども会や町内会の活動も衰退していく中、今後の地域づくりには住民の主体的な行動力が必要である。地域活性化に向けての取り組みをどのように考えるか。

池田町長

地域住民が自ら考え行動を起こすことが原点と考える。その点をしっかりとサポートしていく。

今回津野山学を含めた地域づくりコーディネーターを育成する塾を開設した。その活動に期待したい。

問 地域活性化の取り組みは
答 コーディネーターを育成



ふるさとづくり
コーディネーター養成研修



ウインタースクール（東津野中学校）

川上

以前「中山間と都市部の教育環境の格差は広がる一方であり個々の能力を伸ばすためにも更に学ぶ機会を」と提案した。現在四万十町や大豊町で公設塾の動きがあるが、本町においてはどうか。

池田町長

塾の目的や対象、公平性などを考慮する必要がある。設置は慎重に検討しなければならぬ。民間塾の誘致や塾の開業支援なども視野に入れ、幅広い考えで教育環境を整えていきたい。

問

公設塾開設は

民間の誘致も視野に

問 仲人謝礼金・結婚祝金の復活を

答 支援のあり方を探る

川上

人口減少の加速を食い止めるべく対策に努める必要がある。結婚から子育てを応援する環境づくりのためにも、仲人謝礼金や結婚祝金の復活を。

池田町長

現在、仲人謝礼金は考えていない。各地域の中で結婚をサポートできる仕組みづくりを検討したい。結婚祝金についても既存の若者定住住宅取得奨励金、出産祝金等と国の制度を導入しながら支援のあり方を探っていく。

その他の質問

問 未婚の男女の出会いを創出する考えはないか。

答 行政主体は困難。実施団体等については、しっかりとサポートしていく。

問 生活習慣・家庭学習の課題解決の取り組みは。

答 学校支援地域本部事業、コミュニティ支援事業をサポートしていく。

問 北川団地の公園化は

答 分譲できるまで利用



松尾信壽

松尾 北川団地は10年経過し、まだ4区画が売れ残っている。残地を公園化する予定はないか。もしくは3年以上に町内業者に建築という条件を取り除くという考えはないか。

池田町長 北川団地は若者定住促進を図るために整備し、平成17年から分譲をして現在4区画が残っており、分譲できるまでは利用する。町内へのUターンをPRして、それでも応募がなければ条件を見直し公募する。

一般質問

問 新田商店街の改良は

答 安全対策を県に要望



北川若者定住団地



新田商店街通学路

松尾 新田商店街の三叉路から北に向かう国道を二車線にするべき。高齢者ドライバーも増えており、歩道・通学路もなく大型車の擦れ違いもできない。空き地・空き家が多くなっており、園児・児童の事故が起きる前に要望を。

池田町長 国道439号は管理者が高知県であるため、安全対策については強く要望している。

川上教育長 園児や児童生徒の安全通学は確保しなくてはならない。グリーンロードとして認定されることで評価している。

高橋建設課長 教育委員会・建設課・須崎土木等で町内の点検をしている。県は歩道をつけることは困難との判断。グリーンロード等で目立つ形で子どもたちの安全を図ってほしい。今年度の予算で行うとの回答。

常任委員会活動報告

総務・産業建設常任
委員会合同視察

場所

宮城県女川町、
福島県南会津町

目的

- ・東日本大震災からの復興状況と取り組みについて
- ・地中熱を始め再生可能エネルギーについて



復興が進む街並

約1万人だった女川町の人口は、東日本大震災の津波による死者613人・不明者259人に加え、以降の人口流出で現在7千人を下回る。震災翌年以來の今視察は、シールピア女川の運営者・女川みらい創造株式会社による現地ガイドに加え、現状や今後の課題などを女川町議会議員の方に伺った。お互いに議会人としての立場から説明や質問がなされた。難題に悩まされながらも一定の方向性が見え始めた時の感動は忘れられないと目頭が熱くなる様な説明をいただきながら新しく生まれ変わろうとしている町並みを歩いた。

産業分野だけ海岸の側に残し、山という山全てで建設機械が稼働して公共施設や宅地整備を進めている光景がまず目についた。「産業は再生されるが命は再生されない」ことを物語っている。また女川町は、原発関係の交付金やカタール基金もあり非常に財政力が強い。住民の理解と合意の上に国が全面的に支援し、残

り3か年での完全復興を目指すしている。震災をきっかけに依存傾向になった住民の現実やコミュニティの再生等、表面には見えにくい多くの課題解決には、一般公募で発足した中学生50代前半のワーキンググループの存在が大きい。老人クラブや社会福祉協議会も見守り活動等で活躍している。本町でも町民一人ひとりが、今一度危機意識を高め、地震に備えなければならぬと改めて認識した。

福島県南会津では「協働の森事業」を提携している。榊島ミドリ安全の関連会社、エナジアの案内で介護老人保健施設等を視察した。白石社長自らに概要を説明いただき、地震後の「人間の無力さ」「災害に強いエネルギーの確立」の話に感銘を受けた。そうした中で設立した会社、エナジアは地中熱や木質バイオマスを利用した地球環境に優しいエネルギーの研究、コスト削減と雇用創出に取り組んでいる。災害に強いエネルギーとして経済産業省等の

信頼も厚く大いに期待できる。特に、地中熱を利用したヒートポンプ方式エネルギー開発には目を見張る。煙が出ない・音がしない・有害物質を排出しない等、非常に画期的な新しいエネルギー技術である。現実に介護老人保健施設などで大幅な経費削減効果を生み出している。津野町において最も将来的懸案事項である燃料費など、公共施設（社会福祉施設）のコスト削減に利用できないか、引き続き調査研究を進めていくべきと考える。



地中熱研修の様子

重ねて「原発再稼働反対」を議決している以上、原発に替わるエネルギーの調査も継続していくべきと考える。

総務常任委員会視察

場所

葉山小学校

目的

コミュニティ・スクール導入促進事業とアクティブラーニングについて

個々の能力を他者とどう関わり、どう活かすかを目的としたアクティブラーニングへの取り組みの効果が、全児童が主体的に取り組む授業風景に表れている。教員の大層な意識改革・チームワーク・個々の指導能力の向上が重要である。そのため、保護者や地域と共に学校を運営するコミュニティ・スクールの導入がとても有効であることを確認した。

今後は町内の全小・中学校において、同様に進められたい。

議会のびいき

11月

1 北海道訓子府町開基120年記念式典 (正副議長)

高知県戦没者追悼式

(高知市・総務常任委員長)

5 梶原町町制施行50周年記念式典 (副議長)

8 県選出国会議員と町村議会議長との意見交換会 (東京都・議長)

9 町村議会議長全国大会 (東京都・議長)

10 高幡町村議会議長会県外研修 (神奈川県・議長)

11 津野町戦没者追悼式 (西庁・議員)

14 総務常任委員会 (葉山小学校・委員)

19 北海道訓子府町との交流会 (天狗荘・議員)

21 国道439号新矢筈トンネル早期期成同盟会定期総会 (仁淀川町・議長外)

24 全員協議会 (本庁・議員)

25 関東高知県人大懇親会 (東京都・議長)

27 産業祭・健康ふくし展 (葉山運動公園)

30 高幡広域市町村圏事務組合他定例会 (須崎市・議長)

高幡東部清掃組合議会臨時会

12月

1 議会運営委員会 (本庁・委員)

7 第5回津野町議会定例会開会 (本庁・議員)

8 休会 (本庁・委員)

10 一般質問 (本庁・議員)

11 休会 (本庁・委員)

12 議案審議、閉会 (本庁・議員)

14 地区長会末会 (西庁・議長)

16 須崎警察署員との交流会 (須崎市・議長)

22 郷分団二部消防車両入魂式 (議長)

23 奥四万十博クロージングイベント (四万十町・議長)

1 津野町成人式(本庁・議員)

2 津野消防出初式

4 津野消防出初式

5 新年挨拶回り (鳴川グラウンド・議員)

12 議会だより発行調査特別委員会 (本庁・委員)

12 議会だより発行調査特別委員会 (本庁・委員)

13 議員行政実務研修 (高知市・議員)

23 議会だより発行調査特別委員会 (本庁・委員)

26 香川県土庄町議会行政視察 (にじいろ園・議長)

(わが家のペット紹介)

今回は、松尾政顕さんの愛鳥です。

住所 姫野々
 名前 ピーコ1号～ピーコ30号
 生年月日 5か月～2か年まで約30羽
 鳥種 セキセイインコ (西年に因んで)
 飼主さんから一言 希望の方には無償で差し上げます



松尾さん自慢のセキセイインコ (写真以外にも鳥かご有)

編集後記

昨年は日本各地で災害が多く発生。中でも4月、熊本県で震度7の地震が発生し、多数の犠牲者と被害がまた東日本大震災から6年になる。

高知県は南海トラフ大地震がいつ起こるか分からないと言われていて、災害発生時はあらゆる機能やシステムが停止する。

数年前から町内で自主防災組織の組織化が行われています。防災資機材の購入・倉庫設置が進み、災害発生の模擬訓練も行われています。津野町災害ボランティア運営協議会が設置され研修も行われています。災害が発生すれば、地域の住民同士の助け合いが基本となり重要になります。

行政・消防等は災害対応に追われて、まずは地域住民での自助・共助が大切になってきます。それぞれの地域において災害想定をした自主防災活動に取り組みましょう。

(文責・田中一孝)

※分かりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せ下さい。

津野町役場議会事務局

津野町議会だより
 発行調査特別委員会
 委員長 西元和代
 副委員長 大崎芳章
 委員 中越一俊
 委員 西森盛幸
 委員 田中一孝
 委員 松尾信壽

議会だよりは、環境配慮型の再生紙を使用しています。